

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

第 272 回 こんな「報酬・料金」アラカルト

2008.8.24

「一体いくらかかるの?」、我々の周辺には意外と値段が分からないサービスや商品がある。今回はそんな雑学アラカルトである。尚、このコラムに用いた多くのデータは推定、うわさの域を脱しないものがある点、笑って許して頂きたい。(謝^{シエシエ}謝)

まず身勝手に趣味のクラシック音楽界、日本を代表する指揮者の公演のギャランティは、国内で 500~1000 万円程度といわてるが、海外では 100 万円を切ることもあるとか。ちなみに、オーケストラの楽団員の平均年収は、国内最高クラスの交響楽団で約 1000 万円。ただし、観客数の伸び悩みや企業の寄付金の減少などで楽団経営は厳しく、知名度は高くとも有力な親組織を持たないオーケストラの楽団員の年収は 400 万円台。小澤征爾氏はワンステージ 1,000 万円以上、これはギャラとしても世界トップクラスである。

NHK 紅白歌合戦のギャラ。ランクがあり最高の S ランク (単価 30 分 5 万円/推定ギャラ 30 万円) が、石川さゆり・小林幸子・五木ひろし・北島三郎・美川憲一等。紅白のギャラはどんな大物が出ても MAX30 万円だとか。演歌系が多いのも NHKらしい。ちなみに、司会をした時の中居君は 100 万円、鶴瓶は 150 万円だとか。(いかがなものか??)

出演料。ゴールデンのパラエティ 1 本大物なら 300 万以上もらっている人もいる。細木数子は 500 万と言われている。紳助なら 300 万ぐらいはもらってるらしい。

(小生、この二人の顔を見たら、テレビのスイッチを切ることになっている)

女優 1 時間当たり出演料、民放各局が、女優や、タレントのギャラの高騰を抑えるために、各局の著作権担当者が年に数回会合を開き、女優のドラマ出演料について、お互いの情報をすり合わせたもの。あくまで目安とされる。金額は 1 時間あたりのギャラである。(芸能人 X ファイルより) 別格は 300 万以上・吉永小百合。(フムフム、小百合ちゃんだけは、何があっても許すのだ!)

以下 300 万・松嶋菜々子、200~250 万・山口智子、小泉今日子、200 万・柴咲コウ、仲間由紀恵、180 万・菅野美穂、常盤貴子、小雪、以下 100~150 万・黒木瞳、石田ゆり子、菊川怜等々、この程度でいいだろう。(小生、実際、知らん人がいる) 篠原涼子、伊東美咲、天海祐希、米倉涼子は、「新・視聴率女優 4 天王」と言われている。ドラマ 1 話あたり 250 万円以上。テレビ CM で一番高額はメジャー・松井秀樹、たぶん 1 億 2 千万円ぐらい。さんま、ビートたけし、吉永小百合クラスで 1 億円、キムタクは 9,000 万円、ヨン様は日本では 1 億円のような。(ヨン様が守ってくれる ~ 警備保障)

次は講演料。竹村健一 (1.5 時間) 120 万円 (都心)/150 万円 (地方) は有名だ。竹中平蔵

の講演料も 150 万円前後らしい。大阪府知事になったタレント、いや弁護士の橋下徹。知事就任前の講演料が 150 万円だったそうだ。(特別公務員は謝金は取れないのだ！)

ここまではまだいいが、野球のオールジャパンの、パフォーマンス大好き監督が 500 万円(注:王さんでは決してない!) ギネスのうっとうしい顔をした司会者は 400 万円以上となると、「善意ずらして儲けすぎている」(怒)...なんて言ってみたくなる。

(どうでもいいが、小生、二人とも嫌いだ! テレビが作った、まるで偽善者そのもの)

ビル・クリントンは去年 1 年間で 5000 万ドル(約 54 億円)もの講演料収入を得ているというから驚きだ。(本当かしら??)

システムエンジニア(SE)の場合。請求書を見て、納得がいかない思いをした企業の担当者もいるのではないか。システムの構築費用の話である。コンピュータのシステム構築費は、投入したSEの人数に、概ね給与相当額の月単価をかけてはじき出すことが多い。技量が高いSEには当然、高い単価がつく。しかも、作業が中断しても、SEは拘束されていると見なされ加算される。その間の費用が割り引かれることはまずない。そんな独特の仕組みになっている。(2007年3月19日読売新聞) 請負の特定派遣で業務する場合、SEのスキルにもよるが、概ね一人 60~150 万円/月となる。(注:オタクが多いのも特色)

M & A 報酬、これも分かりにくい「レーマン方式」という国際的報酬基準がある。それによると、例えば、移動する資産等の総合計額 15 億円の場合の着手金・成功報酬含め約 6,000~7,000 万円の範囲内、それに消費税プラス実費別は常識の世界。

(彼らは、ここまでは決して「ハゲタカ」とは言わないし、思っていない)

パソコンのプリンターが 1 万円台で買える時代、修理の出張費は 1~3 万円/半日取られる。インクがすぐ無くなる様にできているらしいが、これがまた、実に高い。

広い庭を持つ家は昔からお大尽と言われたものだが、植木屋さんに頼むとおばちゃんを含め日当 2~3 万円、5 人ずつ 5 日間もやられたら、維持費たるや、たまったものではない。

それに比べると、税理士の報酬なんて、今や、高いものではなくなった。士、いわゆる「士業」といっているが、ちょいと前まではそれぞれの業界で「報酬規定」があった。公取委から、これが「カルテル」との指摘を受け、今は各自原則自由になった。弁護士の報酬は正に、「ピンきり」。相談料 1 時間 5,000 円は、相場と聞く。

廉価を売りにする士もいると聞くが、質の低下とプライド(社会的使命)が許さないと思っている。(自分の価値を安売りすることは、「質」も「プライド」もなくなっていく...)

いやはや、色々なビジネスがあり、したがって色々な料金・報酬が存在する。物的商品でない限り、適正価格が否かは、素人にはよく分からない。「無形財」(サービス)に対する「効用」(満足度)を見極めるしかないと思っている。